

## 肝炎ウイルス感染予防に関する認知度アンケートの 解析及び今後の課題について

平成 31 年 3 月 20 日  
広島県健康福祉局業務課

### 1 概要

B型肝炎ウイルス（HBV）及びC型肝炎ウイルス（HCV）の感染予防を行うためには、一般県民それぞれが HBV・HCV の感染経路を知り、正しい予防方法を知ることが重要である。

そこで、第3次広島県肝炎対策計画で平成33年までに「肝炎ウイルスの感染予防に関する認知度」を50%以上にすることを目標とし、一般県民へのアンケートにより認知度を把握することとした。

次のとおりアンケートを実施し、認知度を求める方法を次のように定義したが、認知度を求める方法の妥当性について御協議いただきたい。

### 2 対象と方法

全問最も正しい回答をした場合に100点とし、スコアの平均値を「肝炎ウイルスの感染予防に関する認知度」とした。各設問の配点は均一とせず、感染予防への寄与度を考慮して配点した。この配点は、解析者を除く肝炎対策グループ員8名へのアンケート調査に基づいて設定した。

設問内容及び配点については別紙のとおり。

平成30年4月1日時点で2,212,088人がモニターとして登録している民間のリサーチ業者にアンケートの実施を委託した（表1）。

表1 アンケートの実施概要

期間	平成30年5月23日～6月11日
対象者	登録しているモニターのうち広島県に住んでいる男女1,000人
割付	～20代, 30代, 40代, 50代, 60代～の男女（10区分） 区分毎に先着100人割り付ける
設問数	10問

### 3 結果

回答者の年齢に男女差はなかった。スコアの平均は女性が43.3点と男性の37.4点よりも高く、全体では40.4点だった。

表2 アンケート実施結果

	男性	女性	total
人数	500	500	1,000
年齢（平均値）	44.9 (17-69)	44.5 (18-69)	44.7 (17-69)
スコア（平均値）	37.4 (0-91.9)	43.3 (0-100)	40.4 (0-100)

括弧内は（最小値－最大値）

スコアの平均点を性・年齢別にすると全ての年齢層において女性の方が男性よりも高かった(表3)。スコアが最も高いのは「30代, 女性」の48.1点で, 最も低いのは「~20代, 男性」の27.5点だった。また, 全ての区分において目標の50%に到達していなかった。

表3 性・年齢別スコア (平均値)

年齢層	男性	女性	total
~20代	27.5 (0-82.8)	35.2 (0-100)	31.4 (0-100)
30代	40.5 (0-91.9)	48.1 (0-100)	44.3 (0-100)
40代	34.7 (0-82.8)	46.6 (0-100)	40.7 (0-100)
50代	41.2 (0-91.9)	41.4 (0-91.0)	41.3 (0-91.9)
60代~	43.3 (0-91.9)	45.2 (0-86.3)	44.2 (0-91.9)

※括弧内は (最小値-最大値)

感染予防に関する認知度は40.4%であった。スコアは30代と60代に2峰性のピークがあり, 全世代において女性の方が男性よりも高かった。

#### 4 考察

今回の結果から, 感染予防の啓発が特に必要な世代は20代以下と40~50代と考えられる。20代は認知度が低く, 肝炎ウイルス検査の受検率も低い。肝炎ウイルスへの感染率は低いと考えられる。40~50代は肝炎ウイルスへの感染率が比較的高い世代にも関わらず認知度が低い。

また, 全世代において男性の認知度が女性と比べて低く, 男性への啓発が必要と考える。